

2021 年 2 月 24 日

会社名 株式会社日本動物高度医療センター
(コード 東証マザーズ：6039)

住所 神奈川県川崎市高津区久地二丁目5番8号
代表者 代表取締役社長 平尾 秀博
問合先 担当者 取締役管理本部長 石川 隆行
電話 044-850-1320

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時 2021 年 2 月 20 日 14:30～15:10
開催方法 オンラインによるライブ配信
開催場所 東京都中央区日本橋 2-7-1
説明会資料名 動物医療に真剣に取り組む会社

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料

動物医療に真剣に取り組む会社

株式会社日本動物高度医療センター

東証マザーズ：6039

1	動物医療業界と当社について	P.3
2	決算について	P.24
3	市場動向と成長戦略について	P.31

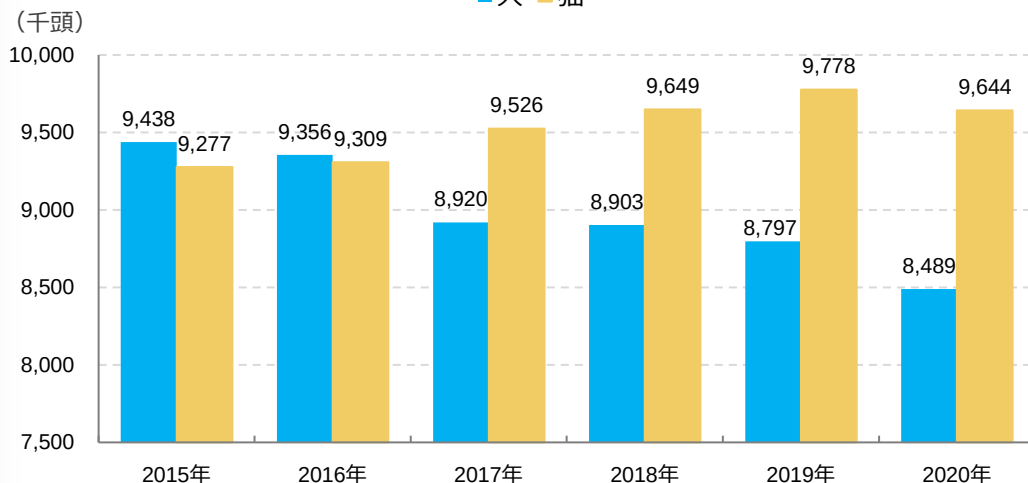
1. 動物医療業界と当社について



動物医療業界を取り巻く環境

犬・猫の飼育頭数

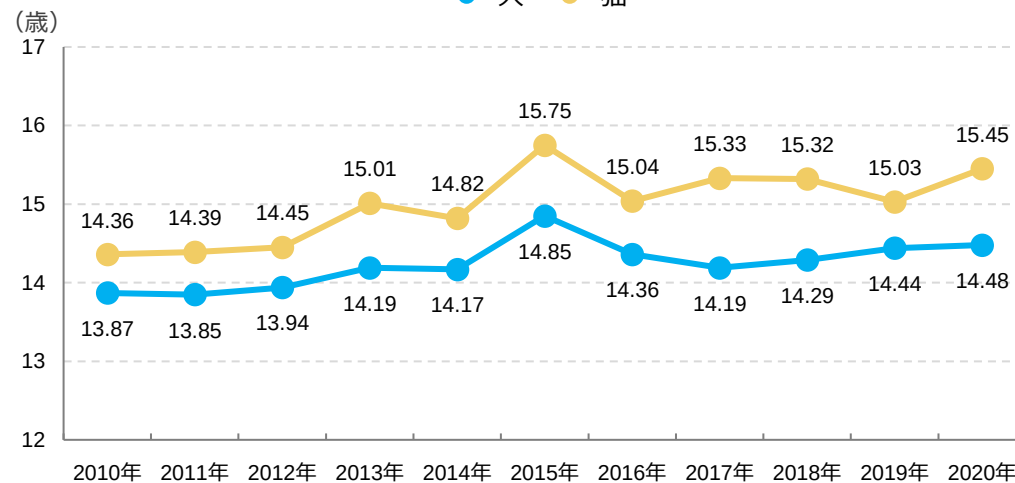
■犬 ■猫



出所：日本ペットフード協会

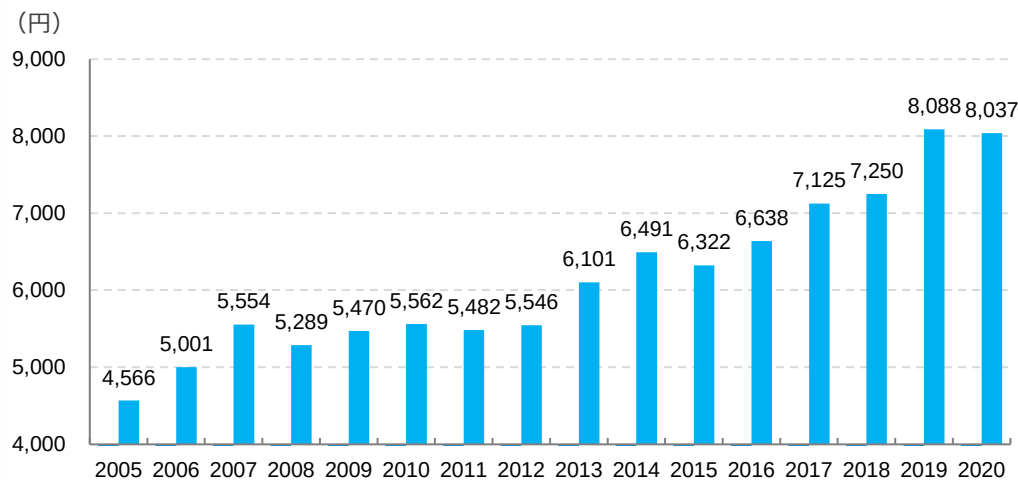
犬・猫の平均寿命

●犬 ●猫



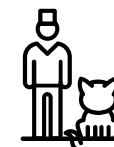
出所：日本ペットフード協会

1世帯当たりの動物病院代の年間支出額（2人以上の世帯）



出所：総務省「家計調査」

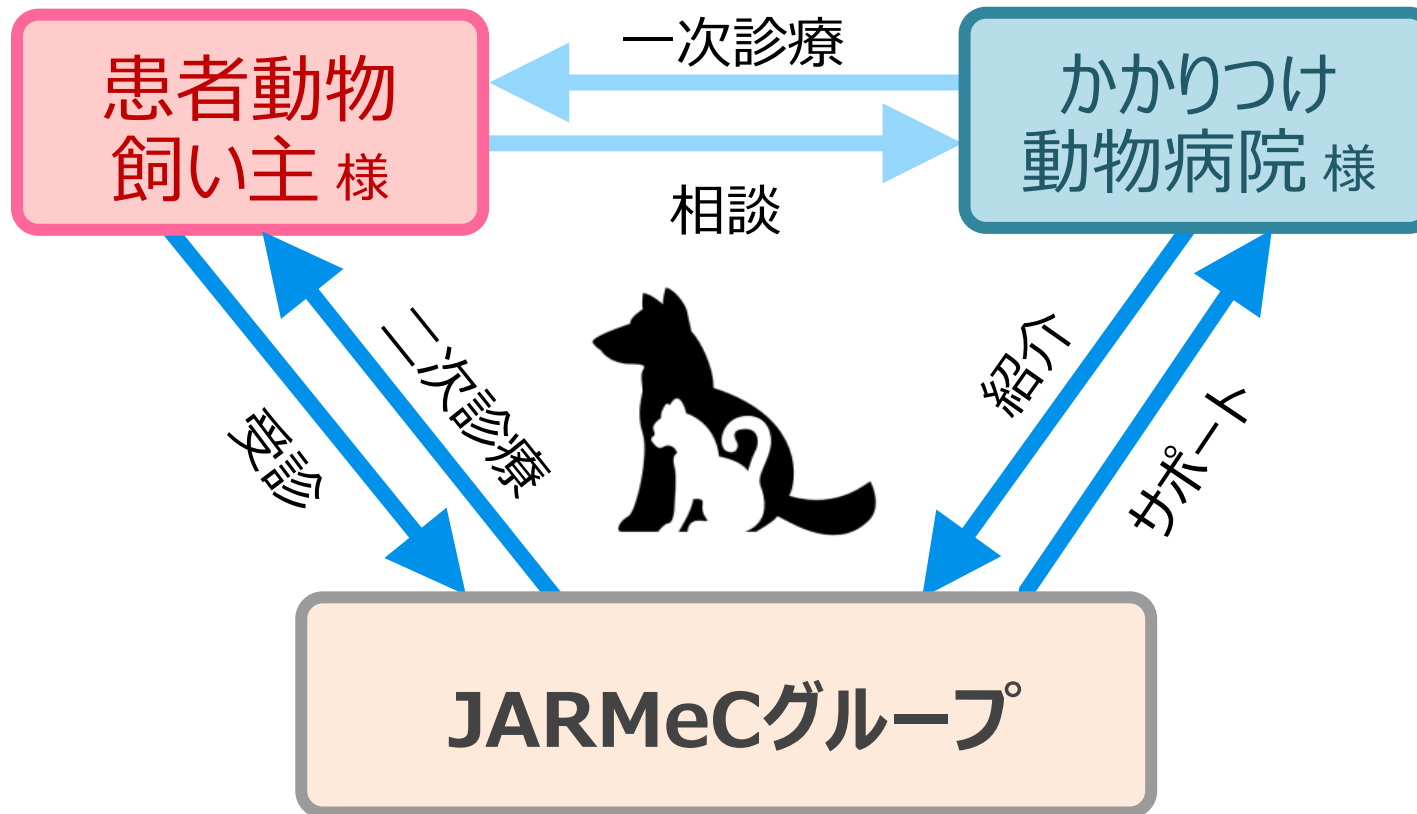
- 犬の飼育頭数は減少傾向、猫は増加傾向が一服
- 平均寿命は伸長傾向
- 医療にかかる費用は2005年比で約1.8倍



大学 **17** / 全国 **12,116** 病院
(2019年12月末時点)

● 大学病院





JARMeCグループはかかりつけ動物病院様と連携して充実した動物医療体制を実現

病院の区分	 JARMeC Japan Animal Referral Medical Center	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10～19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える。

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評である。

チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応。

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385,500,660円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	220名（非常勤18名を含む）※グループ全体（2020年12月現在）
関連会社	株式会社 キヤミック（高度医療機器を用いた動物の画像診断センター）

- 2005年 9月 株式会社日本動物高度医療センターを設立
- 2007年 6月 川崎本院を開業
- 2009年 3月 『小動物臨床研修診療施設』として民間では初めて農林水産大臣より指定
- 2011年12月 名古屋病院を開業
- 2014年 1月 株式会社キャミックを子会社化
- 2015年 3月 東京証券取引所マザーズ市場に新規上場
- 2018年 1月 東京病院を開業

JARMeCは動物医療業界において、

「臨床や教育の現場で活躍する**人材教育**」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う**臨床研究**」にチャレンジし、

「教育、研究の実践の場としての**高度医療**（二次診療）」を
地域の連携病院と協力して提供する

以上により広く社会に貢献することを理念としています。



JARMeCグループの各拠点



JARMeC 東京 (東京都足立区)



JARMeC 名古屋 (名古屋市天白区)

CAMIC ひがし東京



CAMIC 城南



CAMIC 練馬



CAMIC 埼玉



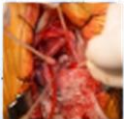


【施設概要】

所在地 神奈川県川崎市高津区
土地 2,142m²
建物 5階建て (3,721m²)
駐車場 22 (～40) 台
診察時間 9:00～22:00 (年中無休)

1階 受付・診察室・各種検査室
2階 手術室・準備室
3階 臨床検査室・スタッフルーム
4階 入院室・ラウンジ
5階 事務局・セミナー室 他

専門診療科による高度医療

>	循環器・呼吸器科 Cardiology / Respiratory Medicine	
>	泌尿器生殖器・消化器科 Gastroenterology / Urology	
>	腫瘍科 Oncology	
>	脳神経・整形外科 Neurology / Orthopedics	
>	眼科 Ophthalmology	
>	麻酔科 Anesthesiology	
>	放射線・画像診断科 Radiology & Imaging	

- ・特定の診療分野に特化し実際の診療を行う。
- ・動物の生命もしくは生活の質に大きくかわる分野を広くカバーする診療科を揃える。
- ・併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施。

例) 心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患
腫瘍科+循環器/呼吸器科
発作症例 (てんかん発作と不整脈発作の鑑別)
脳神経科+循環器科

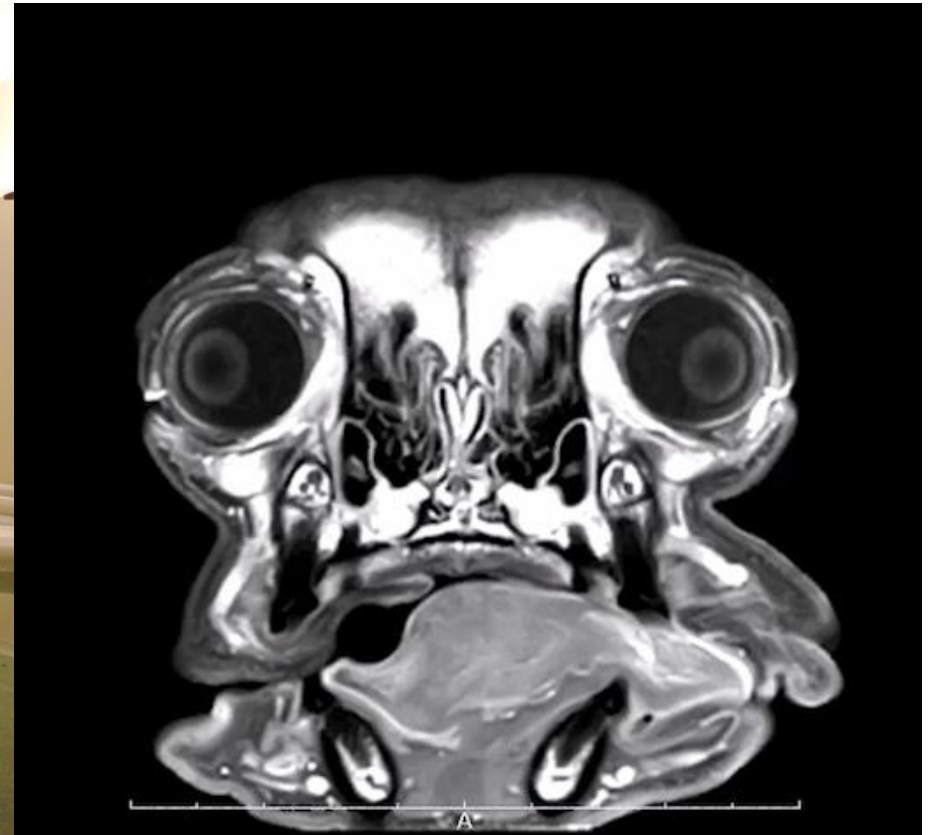
- ・診断の肝となる画像診断や検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、上記診療科をサポートする。



高度かつ総合的な獣医療を提供



断層画像や3D像を撮影できるCT装置を用いることで、一般の医療機器では見つけることが難しい病気の診断や治療計画が可能となり、高度な動物医療の実践が可能となる。



超伝導型の高磁場装置を用いることにより、体の小さな犬猫の脳や脊髄の病変を高解像度で撮像することができ、精度の高い診断につなげることができる。



第1

心臓血管外科
脳神経外科・整形外科

第2

腫瘍科

第3

眼科

第5・第6

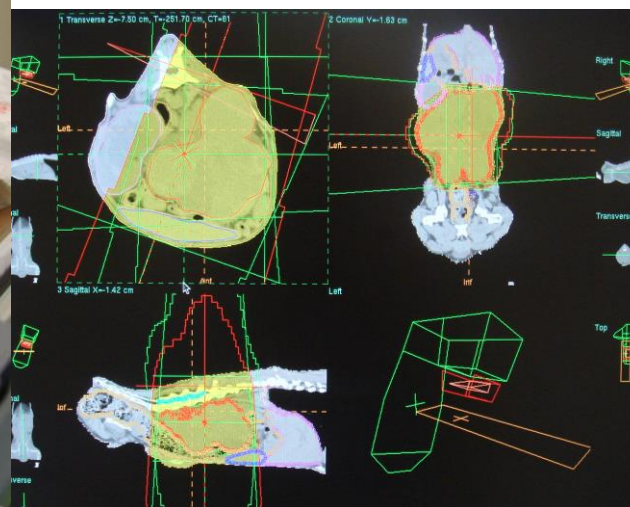
軟部外科一般

第7

歯科口腔外科・内視鏡

心臓手術や開胸手術、開頭手術や神経系手術、各種開腹手術や腫瘍摘出術、低侵襲手術（腹腔鏡手術・カテーテル治療）など、特殊な手術や難易度の高い手術を実施。

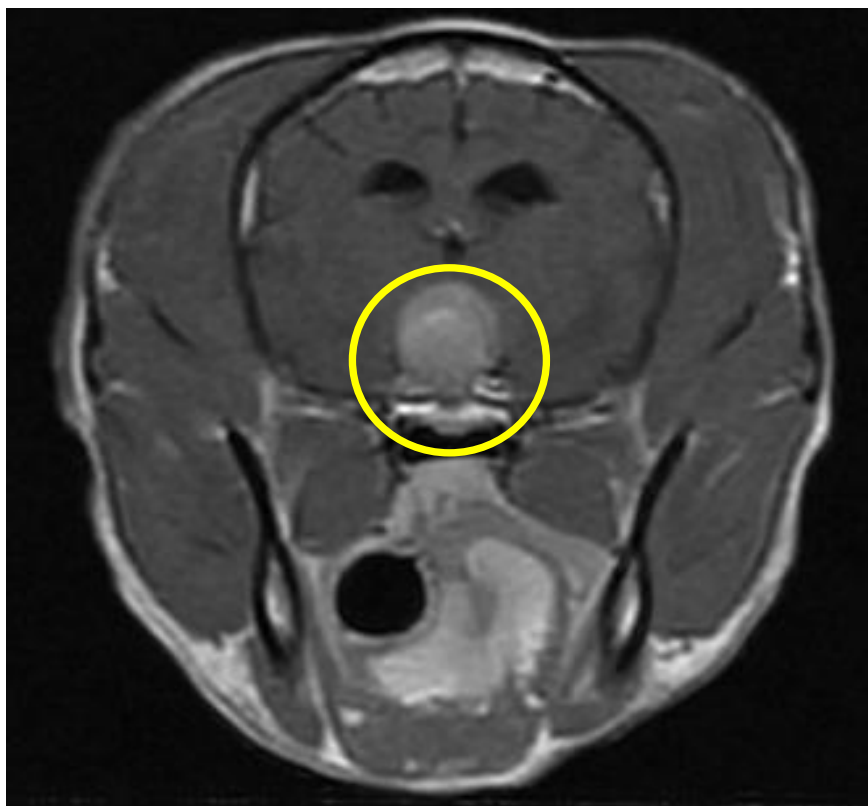
放射線療法装置（リニアック）



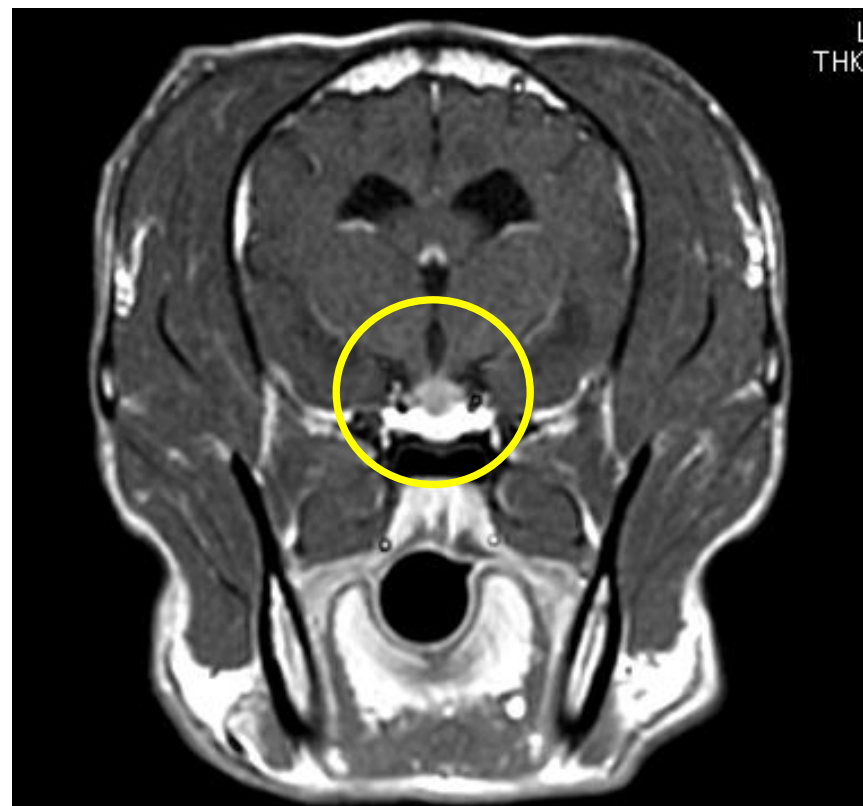
外科手術で切除が困難で、抗がん剤が効きにくい“がん”に対しても、
放射線を照射しがん細胞を殺滅することができる。
体の小さな犬猫のがんに対しても、精密に放射線を照射できる装置を備える。



照射前



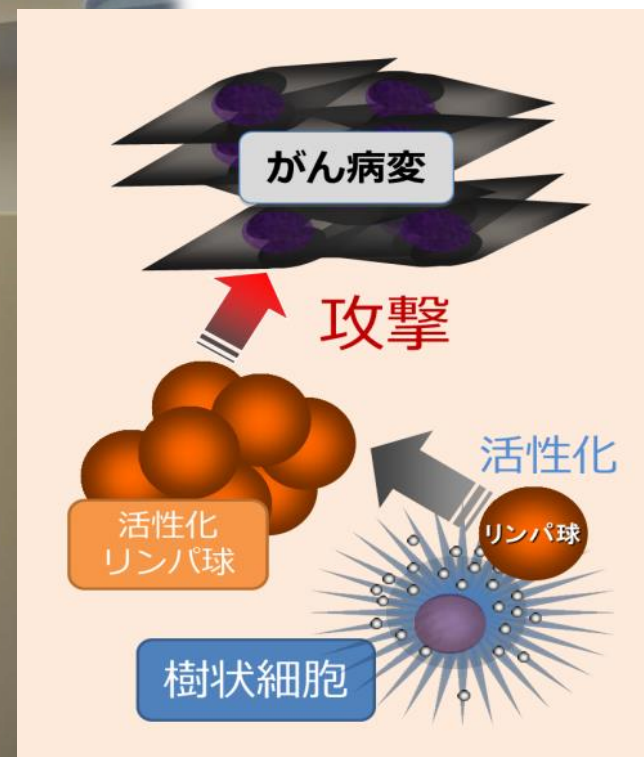
照射後



脳の重要な機能を果たす部位に接しているため外科手術で取り除くことが難しいがん
に放射線を照射することで、がんが縮小させた患者の例。

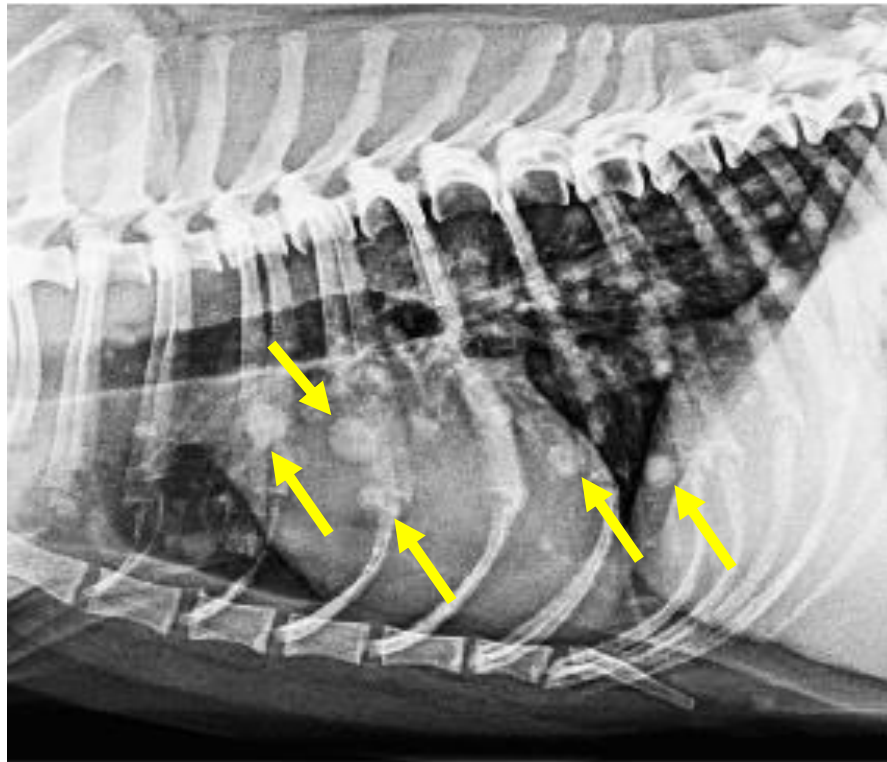


免疫療法

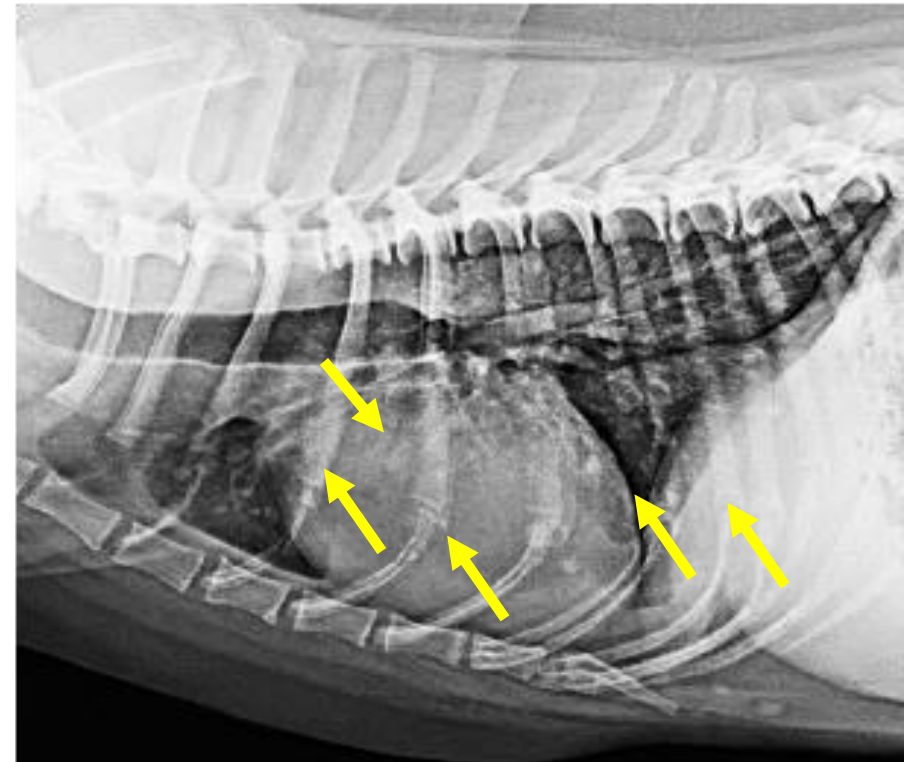


先進医療の一つとして、がんに対する第四の治療法として注目される がん免疫療法を実施。
免疫細胞（リンパ球や樹状細胞）を培養・活性化し、がん患者動物に投与、副作用の少ない治療法の
確立を目指す。

治療前



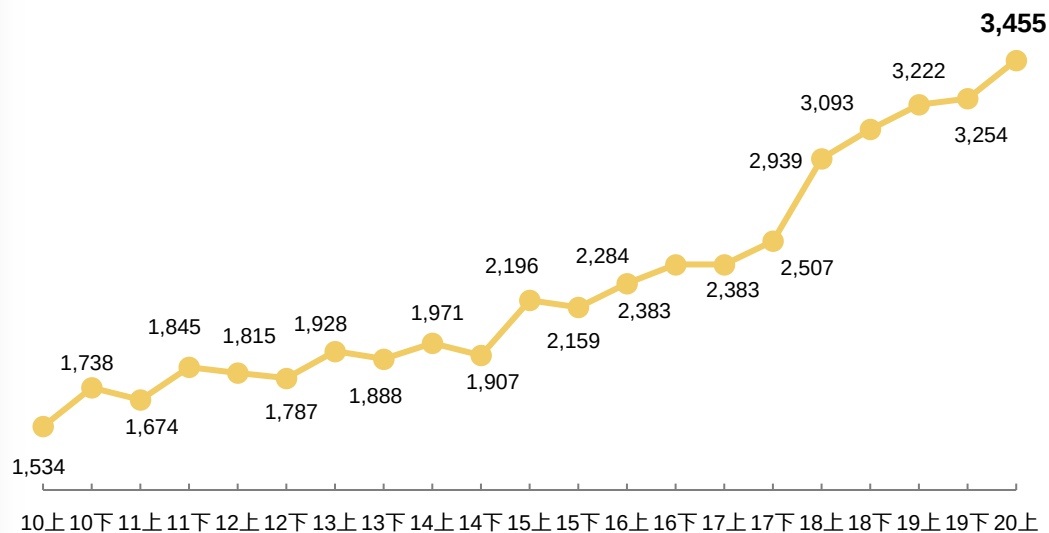
治療後



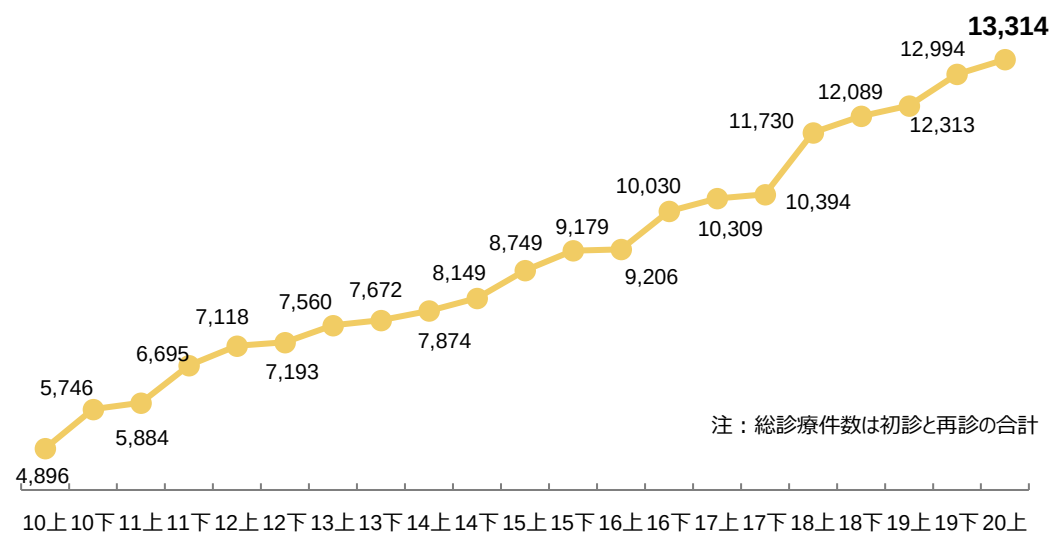
口腔内に発生した がんに対しては放射線療法を行い、
肺に多発した転移病巣に対しては免疫療法を実施した。
咀嚼機能の喪失や顔貌の変化を起こすことなく、全身的にも副作用のない治療で、
QOLを良好に維持しつつ、生存期間も延長することが可能であった。

診療件数の推移

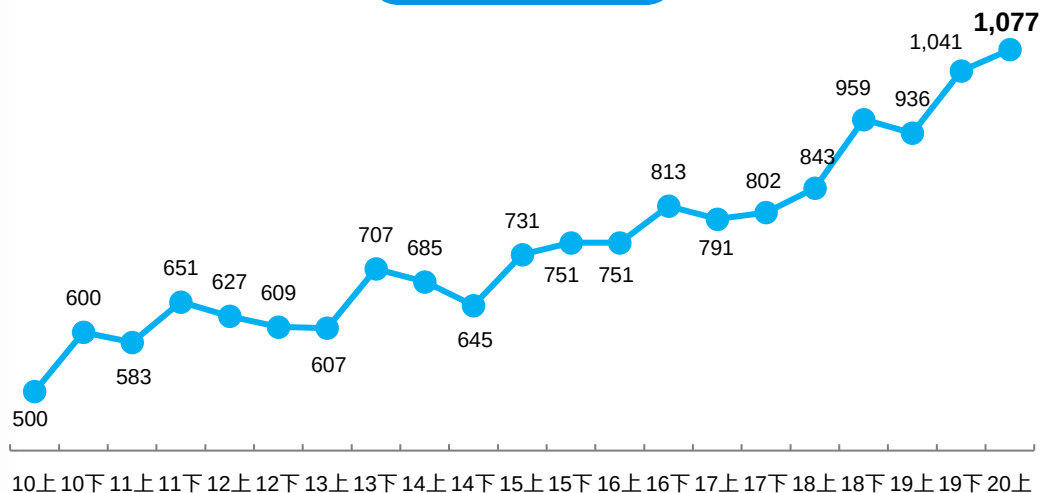
初診件数の推移



総診療件数の推移



手術件数の推移



連携病院数の推移



2. 決算について



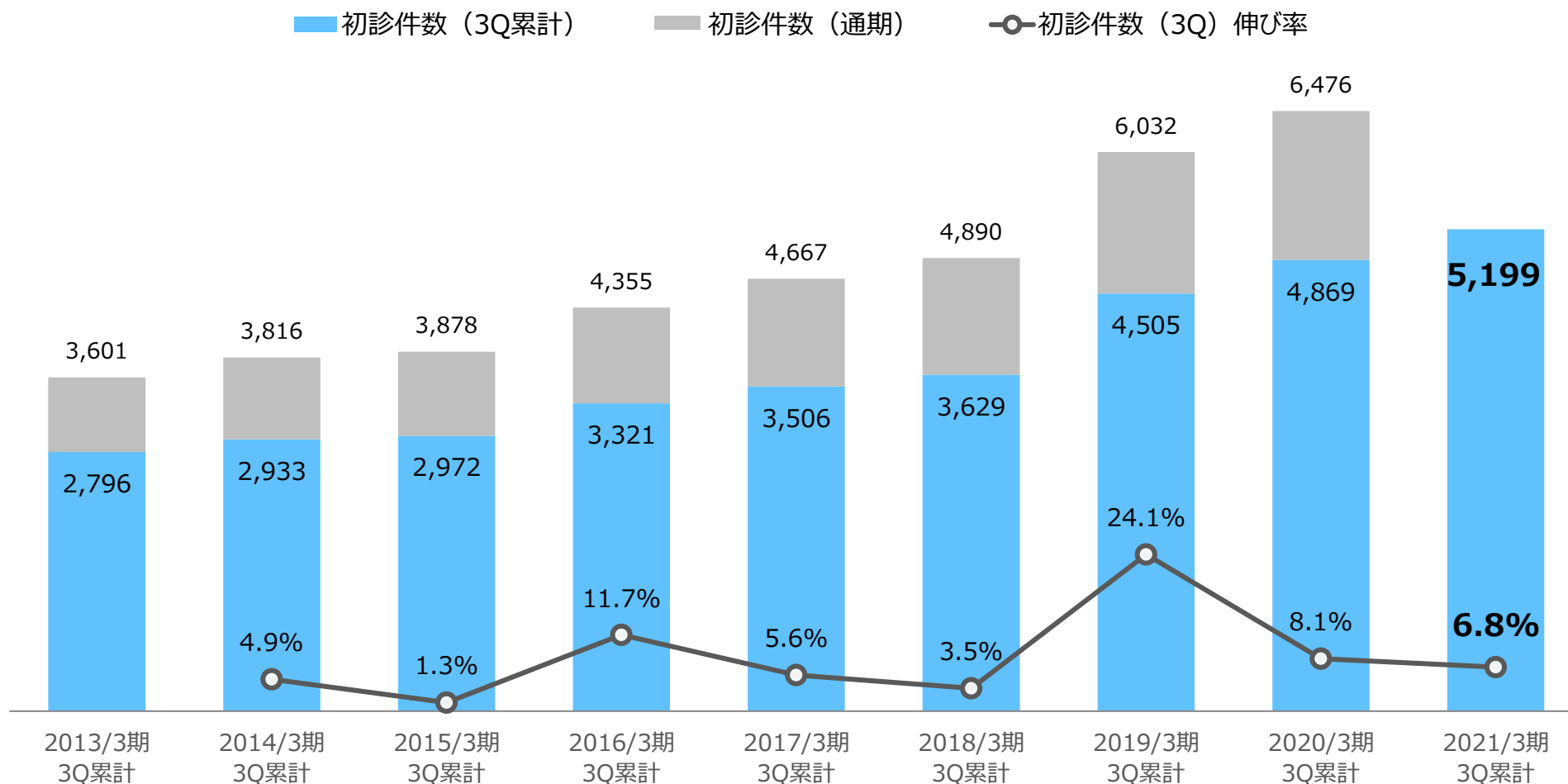
2021年3月期第3四半期累計期間 決算概要

- 初診件数、手術件数の成長が続き、第3四半期累計期間における過去最高売上を更新。
- 一方で、拠点拡大・顧客サービス向上・社内体制整備に必要な人材確保に伴う人件費等、コストが増加し、営業利益以下は減益。

(百万円)	2020/3期			2021/3期				
	3Q累計実績	進捗率	通期実績	3Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	2,048	74.9%	2,734	2,131	+82	+4.0%	76.1%	2,800
営業利益	334	77.7%	430	295	▲38	▲11.6%	68.0%	435
経常利益	341	75.8%	450	297	▲44	▲13.0%	66.8%	445
親会社株式に帰属する 四半期純利益	243	77.8%	312	204	▲39	▲16.1%	64.8%	315
1株当たり 四半期純利益	100.2円	—	128.7円	86.6円	▲13.6円	▲13.6%	—	132.3円
初診件数	4,869件	75.2%	6,476件	5,199件	+330件	+6.8%	77.8%	6,680件

初診件数（紹介数）の推移

- 初診件数は前年同期比6.8%増の5,199件。第3四半期累計期間では過去最多件数を更新。

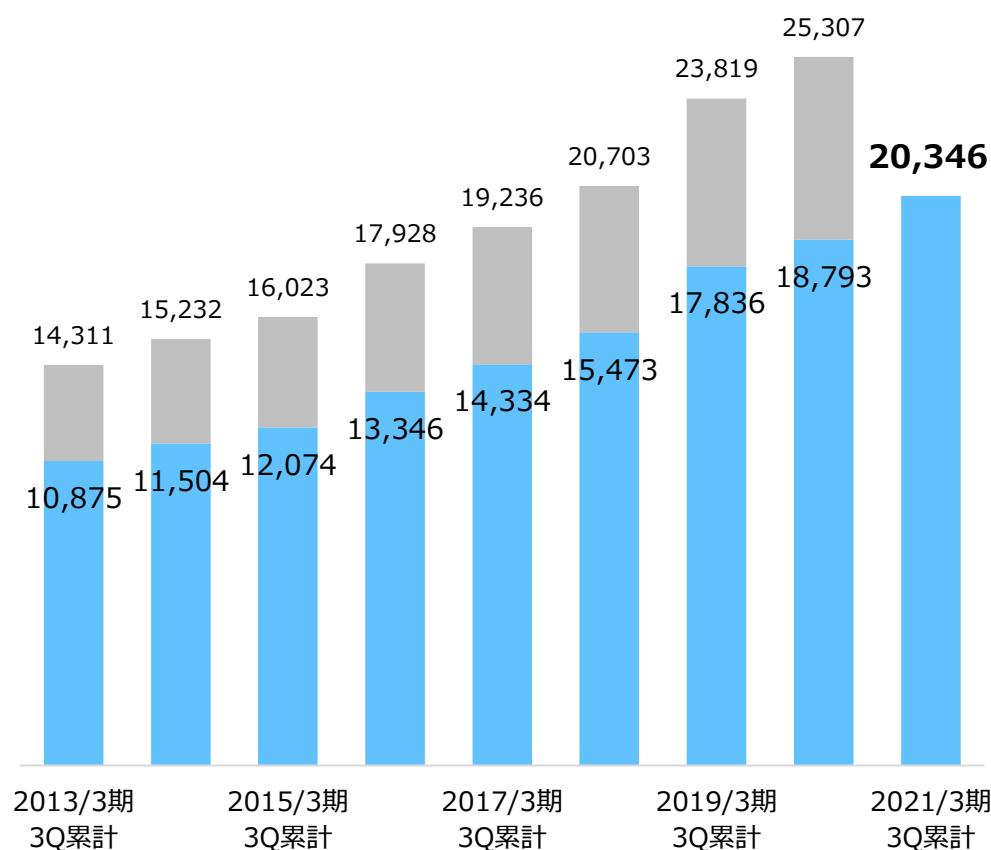


総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数、手術件数においても前年同期比プラス成長を維持。
- 総診療件数は20,346件、手術件数は1,612件となり、いずれも過去最多件数を更新。

総診療件数の推移

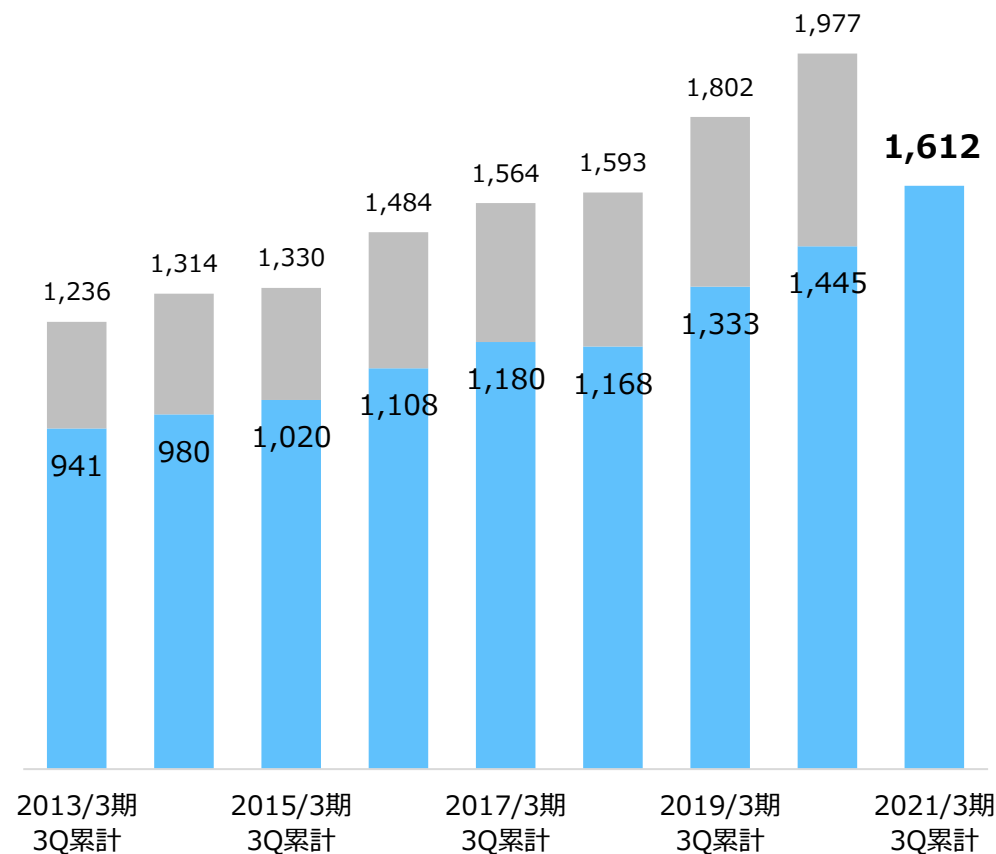
■ 総診療件数（3Q累計） ■ 総診療件数（通期）



※総診療件数は初診と再診の合計数

手術件数の推移

■ 手術件数（3Q累計） ■ 手術件数（通期）



バランスシートの状況

- 有利子負債が1億95百万円減少したこと等により、有利子負債依存度は55.1%に低下。
- 株主資本は、自己株式取得はあったものの117百万円増加し、自己資本比率は38.7%へ上昇。

(百万円)	2020/3期	2021/3期3Q	3月末比
流動資産	1,464	1,437	▲27
現預金	1,249	1,176	▲117
売掛金	144	154	+10
固定資産	4,464	4,384	▲79
有形固定資産	4,282	4,177	▲105
総資産	5,928	5,822	▲106
負債	3,794	3,570	▲223
有利子負債	3,404	3,208	▲195
純資産（株主資本）	2,133	2,251	+117
自己株式	▲13	▲102	▲88
負債純資産合計	5,928	5,822	▲106

有利子負債依存度は
57.4%から55.1%に低下

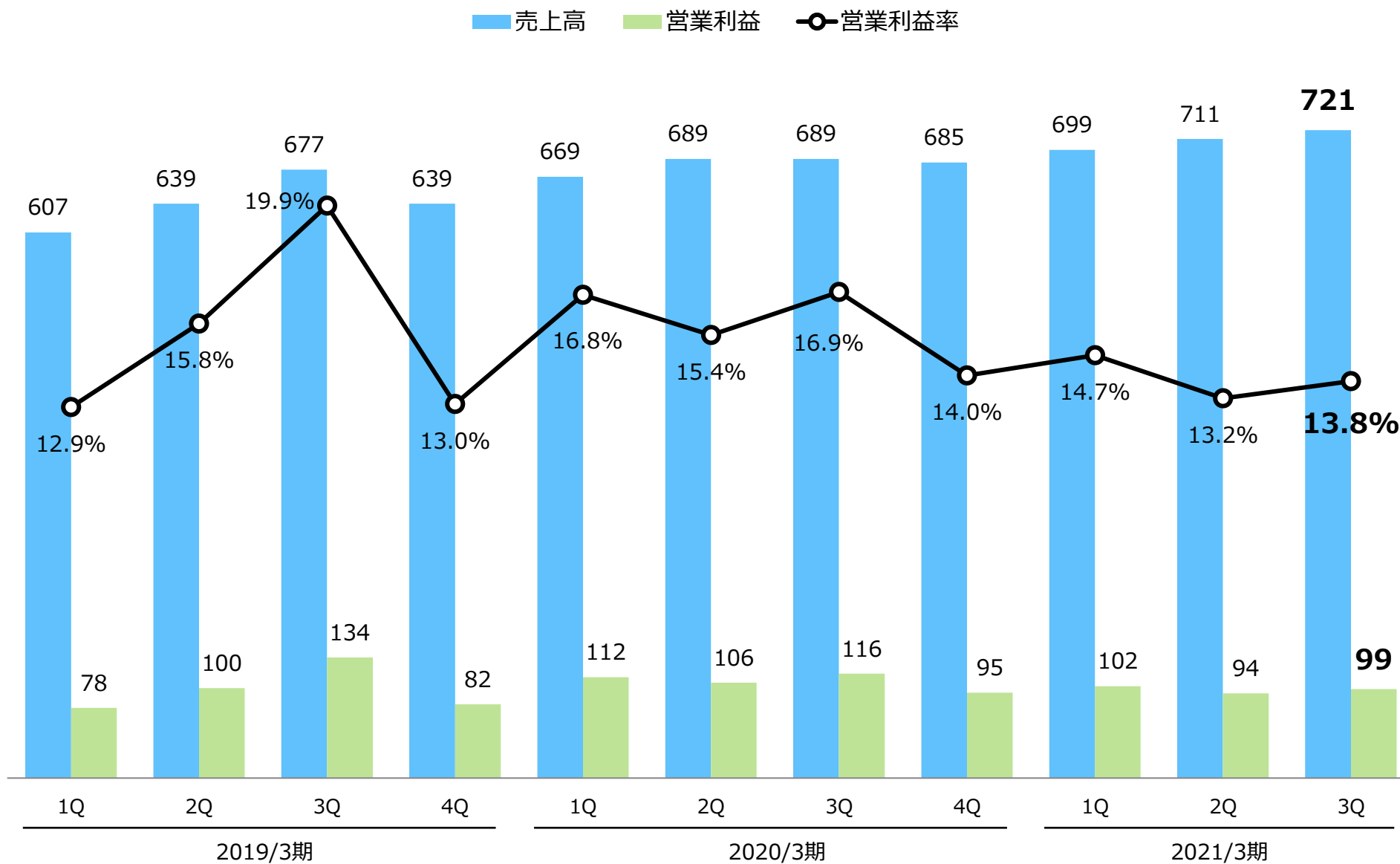
自己資本比率は
36.0%から38.7%へ上昇

2021年3月期の見通し

- 新型コロナウイルスによる足元の業績への影響は比較的軽微とみているが、引き続き感染拡大防止に最優先に取り組み、慎重な業務の遂行を継続。

(百万円)	2020/3期	2021/3期			
		3 Q累計実績	通期計画	前期比	
売上高	2,734	2,131	2,800	+ 65	+ 2.4%
営業利益	430	295	435	+ 4	+ 1.0%
経常利益	450	297	445	▲ 5	▲ 1.3%
親会社株主帰属 当期純利益	312	204	315	+ 2	+ 0.7%
初診件数	6,476件	5,199件	6,680件	+ 204	+ 3.2%

(ご参考) 四半期決算 業績推移

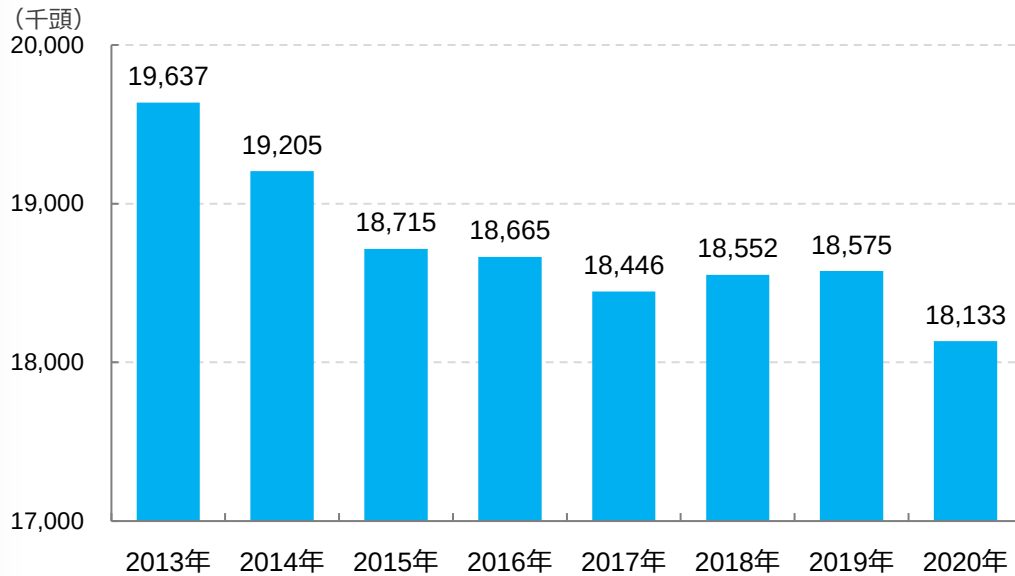


3.市場動向と成長戦略について



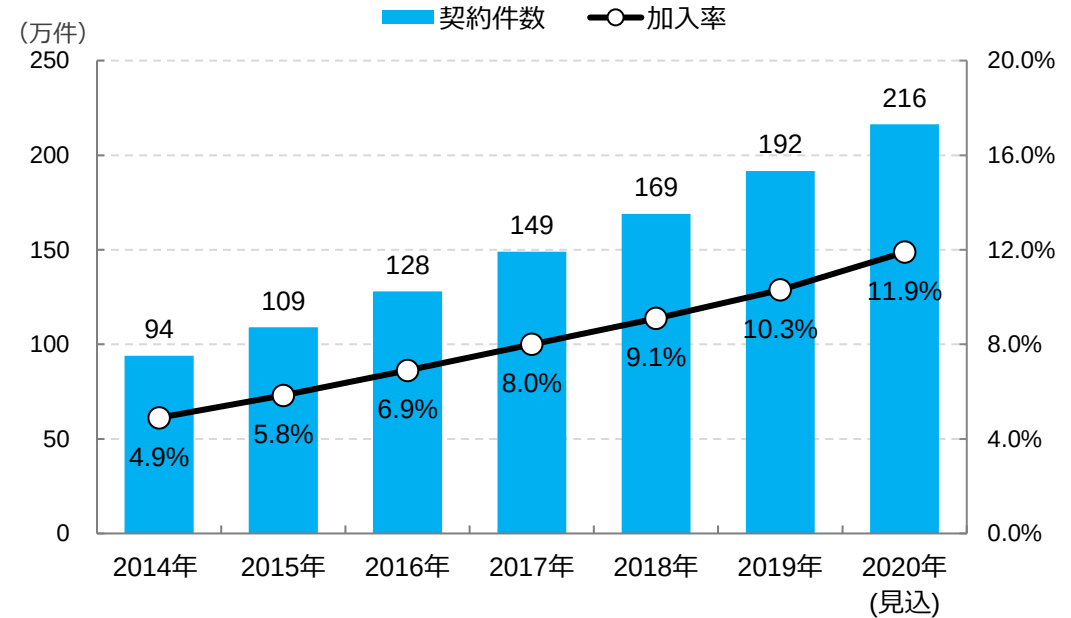
ペット保険の成長性

犬猫飼育頭数



出所：日本ペットフード協会

ペット保険契約件数



出所：富士経済 2020.3ペット関連市場マーケティング総覧

- ◆ 犬猫の飼育頭数は猫の増加により微増であったが2020年は再び減少
- ◆ ペット保険の契約件数は2020年見込で216万件と2014年比で2.3倍
- ◆ ペット保険の加入率も上昇傾向だが10.3%に留まっており、更なる普及が見込まれる
(ペット保険の歴史の長い欧州では加入率は高く、英国25%、スウェーデン50% と言われている)

拠点の拡大

- ◆ 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進
 - 大阪病院（仮称）は、2022年春に開業予定
 - ➡ 東名阪の拠点をもとに、連携病院の拡大加速へ

学術活動・地域連携の強化

- ◆ 学会発表、セミナー開催などの学術活動を継続
- ◆ 地域の動物病院との連携を積極的に推進

関東・東京合同地区獣医師大会にて 学会長賞・奨励賞を7年連続受賞

2013年度 胸腺腫の猫に見られた剥脱性皮膚炎の1例

2014年度 肺吸虫感染の犬の1例

2015年度 腎瘻チューブ設置後に腎切開による結石摘出を行った犬の1例

2016年度 プレドニゾンが奏効した猫消化管好酸球性硬化性線維増殖症の3例

2017年度 ガイドワイヤーの使用により尿路確保が可能となった尿道異常の4例

2018年度 外科的治療により長期生存している肝外胆管癌の猫の2例

硬化性胆管炎が疑われた犬の1例

⇒ 2題受賞

2019年度 前腕の広範囲皮膚欠損創に遊離全層植皮術を実施した犬の2例

肝管空腸吻合を行った肝外胆管閉塞の猫の2例

⇒ 2題受賞

名古屋地区も受賞

巨大な犬の原発性肺腫瘍に対する肋間開胸と横切開旋回開胸の比較



当社の理念に賛同いただいた動物病院様には「**連携病院の証**」を進呈し、

①JARMeCグループのウェブサイト「連携動物病院情報」を掲載

②JARMeCから「学術情報・セミナー情報等」を配信

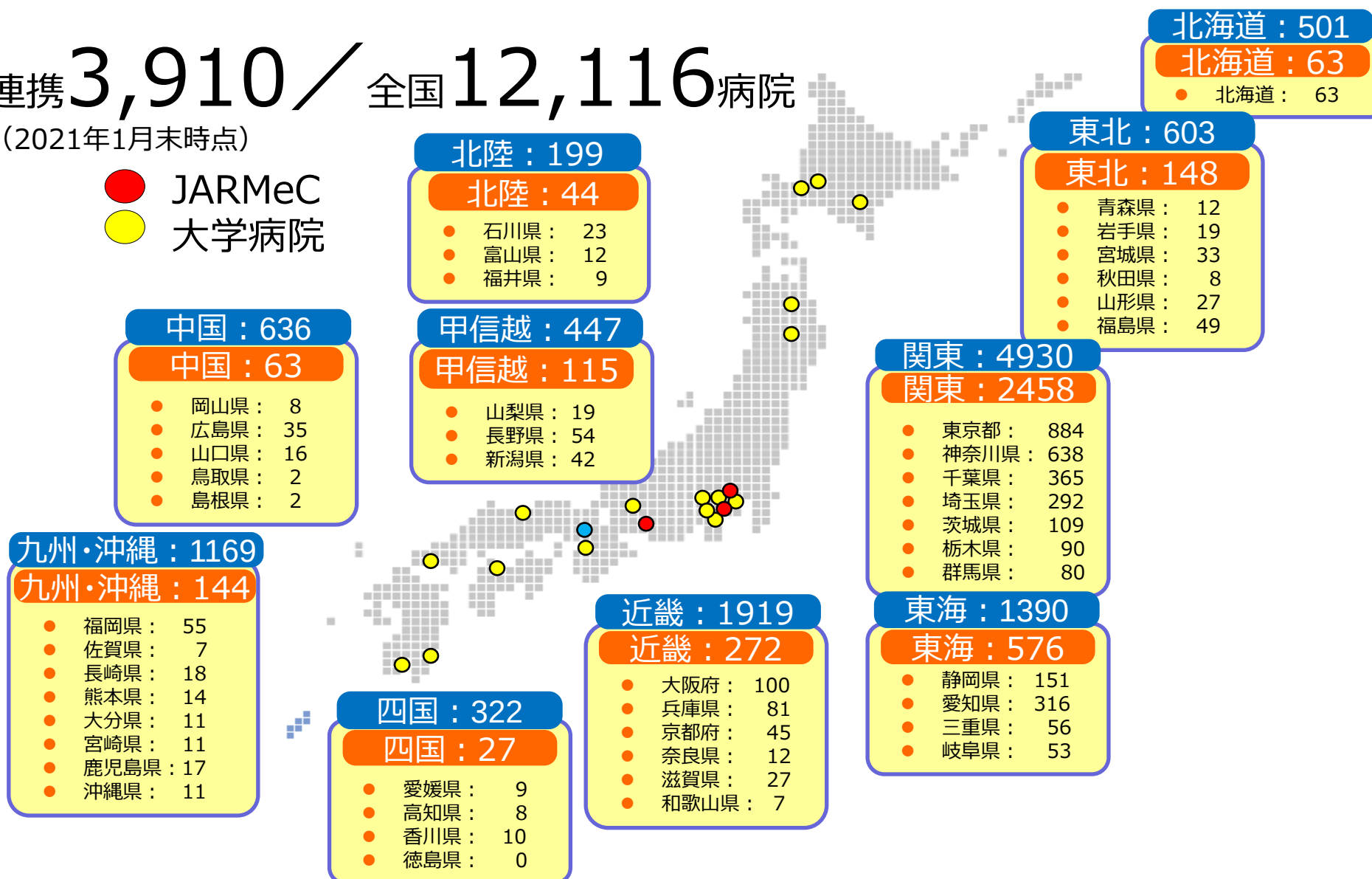
③ご紹介いただいた症例について、JARMeCにおける「診療・手術」の見学受入

等のサービスを実施。

連携 **3,910** / 全国 **12,116** 病院

(2021年1月末時点)

● JARMeC
● 大学病院

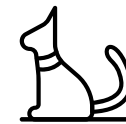




当社は「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」という飼い主様の幅広いニーズに応えるべく、かかりつけ動物病院様が**安心**して紹介できる、患者動物・飼い主様が**期待**して受診できる、その結果皆様と共に我々も**満足**できるよう、動物医療に真剣に取り組み、広く社会に貢献して参ります。

動物医療業界の総合的企業へ

- ◆ M&Aも活用した事業領域の拡大
 - 動物医療に関連した事業の買収を推進
- ◆ 診療外領域で患者動物・飼い主・かかりつけ動物病院をサポートする
新規事業へ挑戦



◆活動量計「プラスサイクル」(2019年2月リリース)

趣旨

- ◆ 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」
- ◆ 「動物の飼い主」と「かかりつけ病院」のコミュニケーションツールとしての役割





日本動物高度医療センター

＜変形性関節症／脊椎症の罹患率＞

犬：12歳以上で45%以上

猫：12歳以上で70%以上

日本大学 獣医外科学教室 枝村一弥 先生提供データ



＜同居ネコでのテスト＞

年齢	体重	3日間合計 活動量	3日間合計 ジャンプ回数
2歳	3.4kg	54,673	1,164
8歳	3.5kg	55,350	654

ジャンプ数は、
新たな運動指標となり得る

PLOS ONE

RESEARCH ARTICLE

Utility of a novel activity monitor assessing physical activities and sleep quality in cats

Atsushi Yamazaki¹, Kazuya Edamura^{1*}, Koji Tanegashima¹, Yuma Tomo¹,
Makoto Yamamoto², Hidehiro Hirao², Mamiko Seki¹, Kazushi Asano¹

1 Laboratory of Veterinary Surgery, Department of Veterinary Medicine, College of Bioresource and Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa, Japan, 2 Japan Animal Referral Medical Center, Inc., Kawasaki, Kanagawa, Japan

猫の身体活動／睡眠の評価にPLUS CYCLEが有用であることを報告

■掲載論文

2020年7月31日に米国科学誌「PLOS ONE」に掲載

タイトル : Utility of a novel activity monitor assessing physical activities and sleep quality in cats

PLUS CYCLE

動物病院がつくった、犬猫用活動量計



PLUS CYCLE対応病院でのご利用方法

異常の早期発見

薬・サプリメントの治療効果測定

手術後の経過観察

疼痛管理

多くの先生に
ご登録いただいております
(1000病院程度)



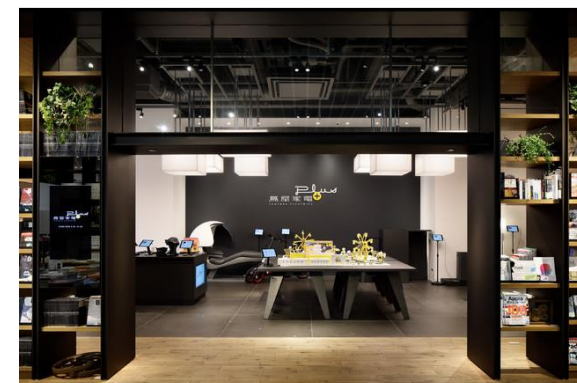
Panasonic 『おうちクラウドディーガ』 と連携開始



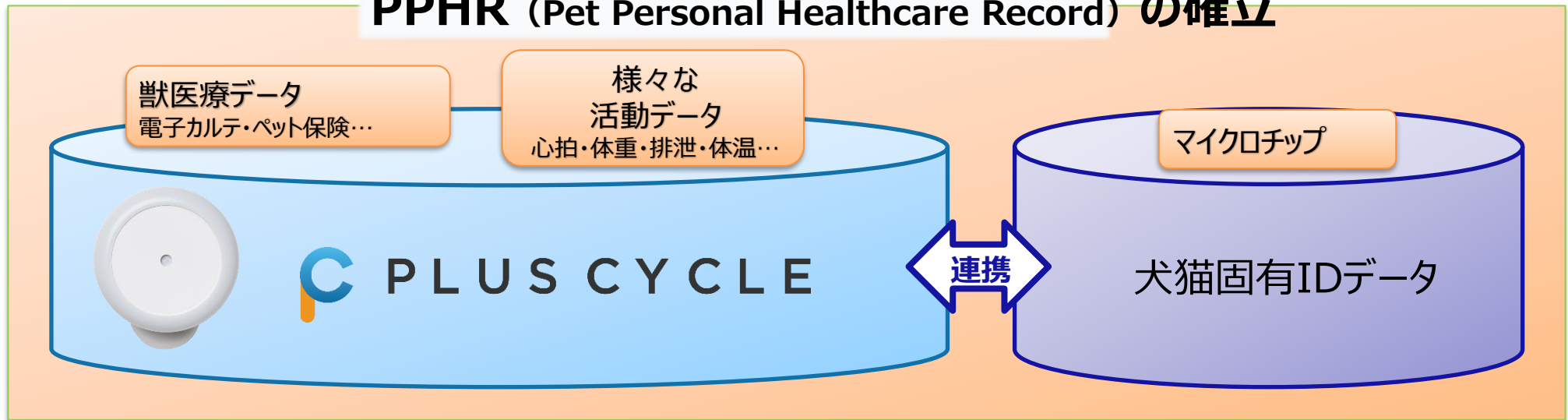
**動物病院向け
レポート作成サービスを開始**



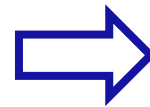
次世代型ショールーム『蔦屋家電+』 にて展示販売を実施



PPHR (Pet Personal Healthcare Record) の確立

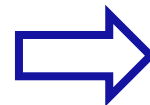


PPHR + 活動データ + AI解析



予防動物医療の確立
未病への挑戦

PPHR + 多業種事業者様



ペット／動物医療業界の活性化



ご清聴ありがとうございました。

- 本資料は、株式会社日本動物高度医療センターの事業及び業界動向についての株式会社日本動物高度医療センターによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた 将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。
- 既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。
- 株式会社日本動物高度医療センターは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、2021年2月20日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社日本動物高度医療センターにより2021年2月20日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

<IRに関するお問い合わせ>

取締役管理本部長 石川 隆行

TEL : (044)850-1320

